

タブレット端末の活用について

タブレット端末の特徴

①新しい文房具になる！

- ・ 新しい文房具の一つとして、デジタル教科書やノート機能の活用、オンライン授業など Society 5.0 実現を目指した学校での新しい生活様式が可能になります。

②コンパクトで、万能！

- ・ 持ち運びが可能であり、撮る・見る・見せる・書きこむ・拡大する・つながる・共有する・協働するなど、一連の教育活動が一つの端末で可能となります。

③個々への対応が可能になる！

- ・ いつでもどこでも場所や時間を問わず利用できるのも、個人のペースや学習状況に合わせて活用することができます。また、学び直しや予習など、子どもの学習意欲や学習目的に対応できます。

④不可能が可能になる！

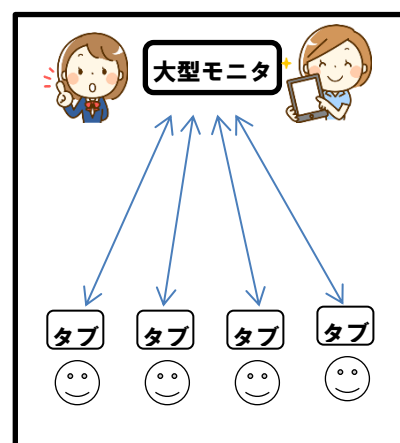
- ・ 様々なアプリを活用すれば、グラフ、立体、シュミレーション、プレゼンテーション、オンラインアンケートなど、これまでノートや黒板など紙面上でできなかった活動が容易となり、教育活動の幅が広がります。

タブレット端末が可能にする「新たな学び」のスタイル

ICTを活用するメリットは、対話を充実させるために思考を可視化したり、互いの考えをリアルタイムで共有できたりすることにあります。これまでとは違ったコミュニケーションパターンが生まれることで、新しい学習パターンや新たな授業スタイルの可能性が広がります。

【一斉学習】

- ① 教師からワークシートや資料の配布
 - ・ 児童生徒が問題を解いて記入したり、配られた資料に考えを書き込んだりできる
- ② 大型モニタの活用
 - ・ 児童生徒の考えを大型モニタで、全体で共有
 - ・ 児童生徒の考えを比較
 - ・ 児童生徒自身が全体に発表 ⇒プレゼン能力の向上



【個別学習】

- ① シュミレーション教材、フラッシュカード型教材、E-ライブラリ（ドリルソフト）などデジタル教材を活用した、個々の習熟度に合わせた学習
- ② プログラミング教育など、アプリを利用した個々の思考活動
- ③ インターネットを用いた情報収集活動

【グループ学習】

- ① タブレット上でペアやグループで思考を共有し、全員が同時に操作しながらの議論

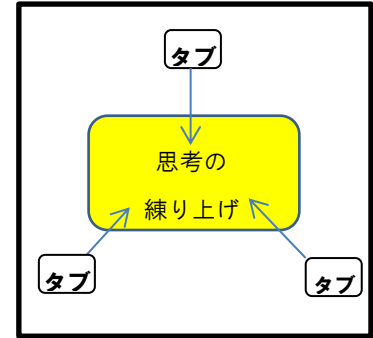
【ホワイトボードとの違い】

- ✓ 個々が操作でき、焦点化しやすい
- ✓ 画像や動画を簡単に取り入れられる
- ✓ リアルタイムに思考が可視化できる
- ✓ 記録を保存し、次時以後にも活用できる

- ② グループに合わせた活動

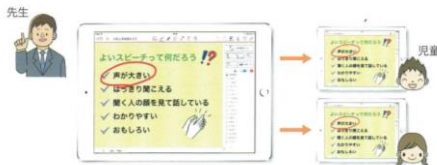
- ✓ 教師が説明用の動画や画像を配って実験や実習を行ったり、グループごとに実験の様子を撮影・記録したりできる

- ③ グループで分担 ⇒ 協働による作品等の創作活動

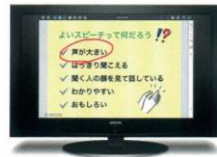


授業支援ソフトについて — MetaMoji Classroom —

先生の操作や書き込みをリアルタイムに共有



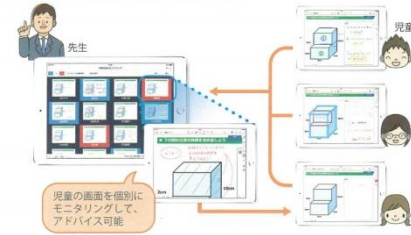
ディスプレイや電子黒板への投影も可能



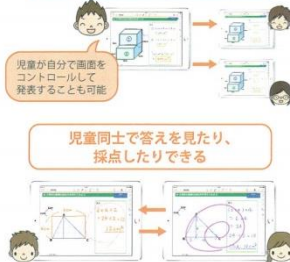
【一斉学習】

先生が児童生徒全員に対して説明を行うシーンで活用できます。先生によるページ移動、ズームイン、書き込み、レーザーポインターがリアルタイムに共有され、児童の「おいてけぼり」を防ぎます。

児童の学習状況をモニタリング



選択した児童の解答を全員に表示



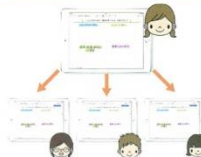
【個別学習】

児童一人ひとりが個別に学習を行うシーンで、児童全員の学習状況を先生の手元でモニタリングできます。児童から「〇」「？」で理解度を先生に知らせることができ、先生は各児童の画面に入って個別アドバイスできます。選択した児童の回答だけを並べて比較したり、選択した児童の回答を全員のタブレットに表示することも可能です。あらかじめ児童全員の回答が分かるため、効果的な授業進行ができます。

グループでワークシートを共有してリアルタイムに編集可能



児童がワークシートをクラス全員に配付できる



【協働学習】

児童がグループに分かれて学習を行うシーンで、グループでワークシートを共有して共同作業ができます。調べ学習や学級新聞作成などにも最適です。児童がワークシートをクラス全員に配布することもでき、より自発的な学習を実践できます。